

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

広島県 広島県水道広域連合企業団

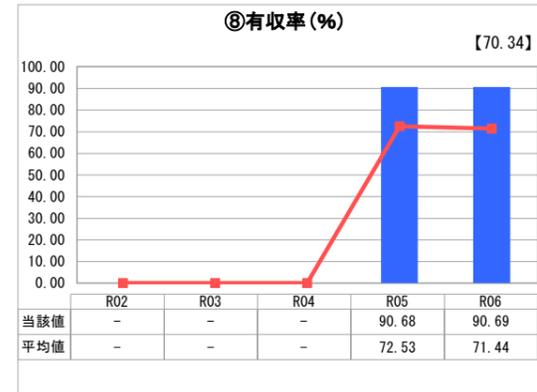
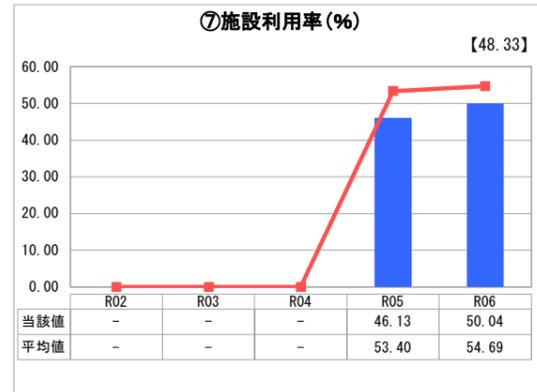
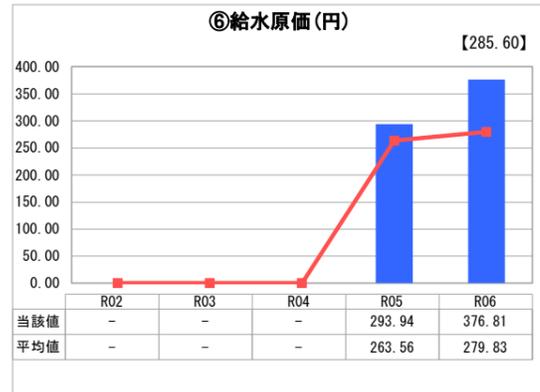
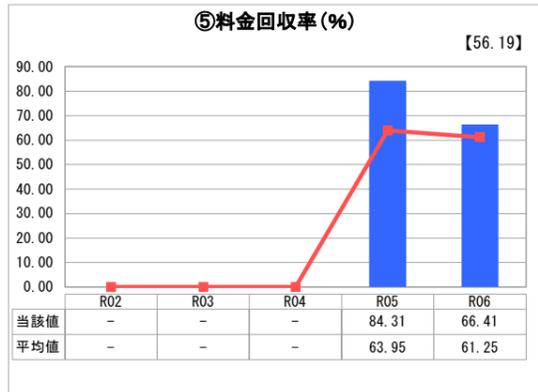
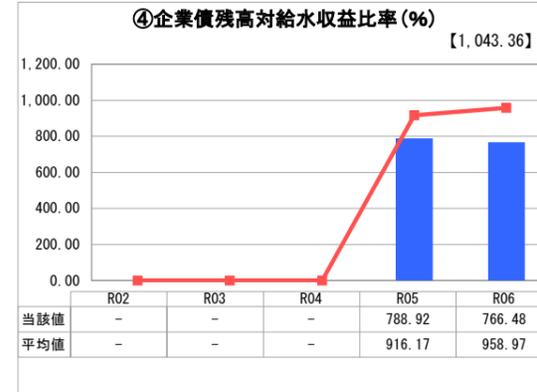
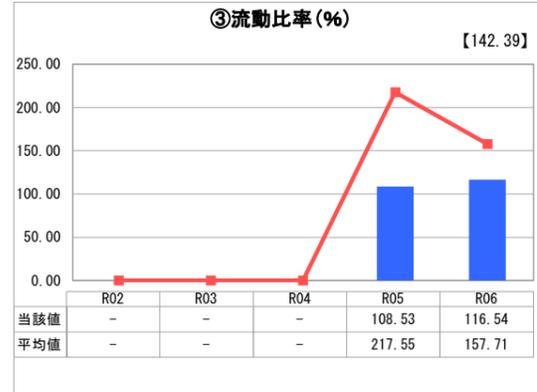
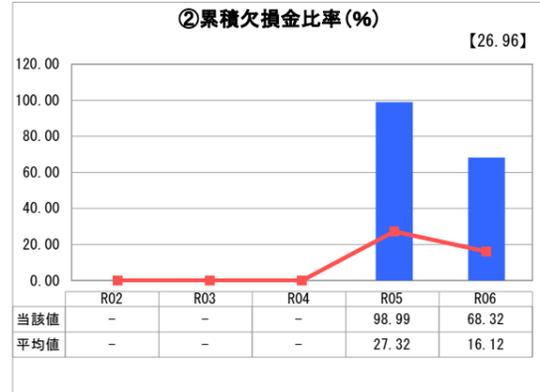
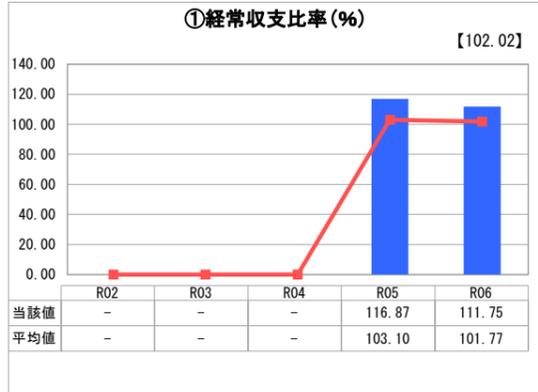
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	77.18	49.36	4,220	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
-	-	-
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
3,812	0.13	29,323.08

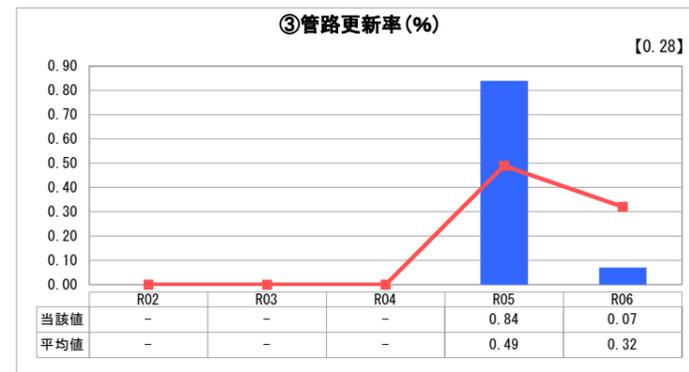
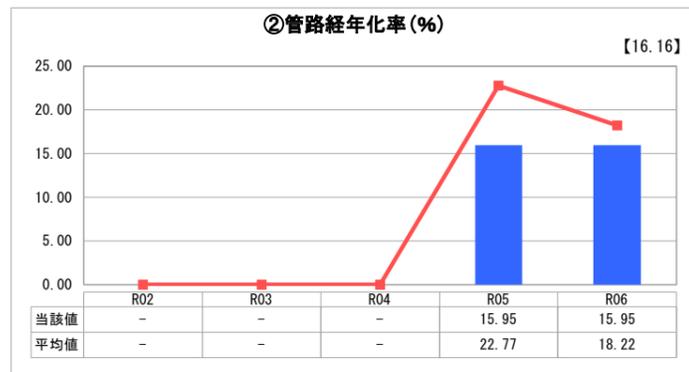
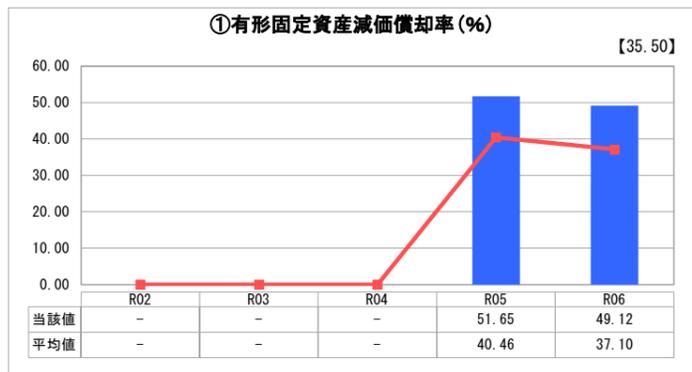
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【①経常収支比率、⑤料金回収率】  
物価上昇等による費用の増加により、経常収支比率は減少しているものの、健全経営の水準となる100%を上回っている。また料金回収率は100%を下回っており、一般会計からの繰入に依存した構造になっている。

【②累積欠損金比率】  
令和5年度から公営企業会計の適用に伴う会計整理により欠損金が発生している。令和6年度は経常収支が黒字となったことから、累積欠損金が減少したため、累積欠損金比率は改善されている。

【③流動比率】  
短期債務に対し支払可能な現金等の保有状況を示す流動比率は100%を上回り、支払能力を確保している。

【④企業債残高対給水収益比率】  
他団体と比べ投資を抑えているため、企業債の借入が少なく、企業債残高対給水収益比率は類似団体平均値（以下「平均値」という。）を下回っている。

【⑥給水原価】  
給水原価は平均値を上回っている。これは、物価上昇のほか、浄水場が点在するなど、地勢的に費用がかかるためである。

【⑦施設利用率】  
施設利用率は、浄水場が点在するなど施設効率が悪く、平均値を下回っている。

【⑧有収率】  
有収率は、平均値を上回っており、施設の稼働状況が収益に反映できている。

### 2. 老朽化の状況について

【①有形固定資産減価償却率】  
有形固定資産減価償却率は平均値を上回っており、資産の老朽化が進んでいるが、前年度と比較して減少傾向にあり、広域化に伴う投資などの効果が現れ始めている。

【②管路経年化率】  
近年に布設した管路が多いため、管路経年化率は平均値を下回っている。しかし、管路の老朽化は着実に進んでいるため、今後計画的に耐震管に更新し、老朽化の改善と強靱化を図っていく必要がある。

【③管路更新率】  
管路更新率は、平均値を下回っており、今後は上下水道耐震化計画に則り、計画的に耐震管に更新していく。

### 全体総括

簡易水道事業の経常収支比率は100%を上回っているものの、一般会計からの繰入金に依存している構造である。

また、社会情勢の変化に伴い、資材価格の高騰や工事費等の費用が大幅に増加するなど、今後、一層厳しい経営状況が見込まれる。

本水道企業団では、中長期的な収支見通しなどを勘案しつつ、統合のスケールメリットを活かし、施設の最適化や更新、コスト縮減を図るなどして、効率的な事業運営を進めていく。